

Action 016
広葉樹伐採&地拵えツアー“リ”の巻
2010年12月11日(土)



冬化粧へと移り変わる中、地道な作業は続く

前回に引き続いて「山守の森再生プロジェクト」第2弾、長野県佐久市の森での伐採と地拵えです。来年4月の植林を目指して、当分の間は地道にこの作業を繰り返していきます。

この日は快晴で暖かかったものの、12月ともなると山は本格的な冬の彩りへと姿を変えつつあり、ご覧の通りの雪景色。雪の残る日陰はぐっと気温も低く、足場も悪かったのですが、みんな元気一杯、ノコギリとナタを持って急斜面に向かって行くのでありました。若いチカラって、素晴らしい！



2日前に降ったという雪でご覧の通りの冬化粧の中、準備を整え、いざ山へ！



急斜面に加えて雪で足元が滑りやすい中、作業に精を出す参加者の皆さん。

森の冬の作業と年輪のハナシ

ところで、林業のサイクルでいうと冬は伐採の季節なのですが、なぜ木を伐るのには冬がいいのか、もう一度おさらいをしておきましょう。

まず、木が水を下げて、扱いやすくなっていることがあります。たつぷりと根から水を吸い上げている季節は、葉が茂り、伐った木も水分で重く、作業は一段と大変です。また、気温の低くなる冬は伐った面に雑菌が付きにくいので、収穫のために木を伐る「主伐」も冬に行なうのです。

木は春になると盛んに生長し、夏から秋にかけては生長がゆっくりになり、冬にはほとんど育ちません。この生長の差が、木を伐ったときに目にする例のバームクーヘンのような年輪になって現れます。つまり年輪は、日本のように

四季がある地域独特のものなのです。雨期と乾期があるところでもできますが、一年中高温多湿の地域の樹木に年輪はできません。

と、そんなことを考えながら木を伐っているうちに、お昼の時間が来たようです。今日も、いい汗かいたぞおー。



お昼ご飯には初の移動式ラーメン屋台も登場！

働くときには目一杯働くけど、基本はとにかく楽しむこと。それが、このツアーのモットーです。これまでもお昼に BBQ をやったり、地元の酒蔵見学に行ったりと工夫してきましたが、今回は、たき火の中で焼いたホクホクのサツマイモと、味噌おでん、そしてシメはわざわざ近隣の町から出向いてもらった、山の麓でフーフー言いながら食べる移動式のラーメン屋台です。

まずは、今回もヤッホー・ブルーイングさんにご提供いただいた「サンサン オーガニックビール」でカンパイ！ オーガニックモルト&ホップを 100%使用したこのピュアな味わい、うーん、たまりません。

そして食後は、たき火を囲んで自己紹介。こうして今回も、山を前に楽しいひとときが過ぎて行くのでありました。



しっかり働いたからこそ嬉しい、作業を終えての乾杯タイム。



アツアツのこんにゃくとダイコンを自家製味噌でいただいた味噌おでん。美味！





「エーッ、ほんとに来るんだあ」という声も挙がった屋台のラーメンと、
雪で冷やした「サンサン オーガニックビール」。最高です！



たき火を囲んで談笑する面々。たき火の中にはホイルでくるんだサツマイモが入ってマス。



メモリアルプレートの前に全員集合して「はい、ポーズ！」。今回もお疲れさまでした！

参加者の声から



●「今では主旨も理解しましたが、最初は『長野でバーベキューをやるから行かない?』と誘われて(笑)、今回で2度目の参加です。空気が抜群に澄んでいる自然の濃いところで木を伐るのは気持ちいいですね」(ササキさん)



●「まずはひとりで参加してみて、気に入ったら誰かを誘おうと思ってやってきました。思っていた以上にしっかりと本格的にやるのが、いい意味で驚きでした。山奥まで来る機会は滅多にないですし、楽しかったです」(Kさん)



●「ふたりとも身体を動かすのが大好きで、7月のツアーに参加して気に入って、今回で2度目の参加です。子どもの頃によく山に行って、木の実を採ったりして遊んだのを思い出しながら楽しんでます」（横田さんご夫妻）



●「会社が CSR で森林整備を支援していて私も関わっているのですが、若い人たちが集まるボランティアがあると聞いてやって来ました。自然の中で身体を動かして、汗をかいて、成果が目で見えるのはいいですね」（タマダさん）



●「実はハイキング感覚で来てしまったのですが、木を伐るのも運ぶのも、思ったより重労働で大変でした(笑)。でも、ボランティアをやりたかったですし、なかなかできないことを経験できて良かったです」（アライさん）